

本年度は、次のことに重点をおいて取り組みます

(1) 「おもしろい授業（学びの必要感、満足感、充実感 がもてる授業）」への挑戦

- ①GIGA スクール構想の実現を目指し、1人1台のタブレット端末を活用し、多様な子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境を整えます。
- ②学年組織を生かした授業改善に向けて、学年内・学年間で「授業を見せ合い議論する」、学びの響き合いで互いに高め合う「響育」文化を醸成します。
- ② アクティブ・ラーニングの視点に立ち、「木崎小授業力向上プラン」「よい授業4つの因子」に示された授業改善の視点と方法に沿って、自己評価やOJT（校長による授業参観、日常的な授業公開と相互評価）を実施する。また、スクールアシスタントを生かして授業の充実を図ります。

(2) あいさつと笑顔のふれあい

- ①「いつでも、誰とでも、何度でも」をモットーに、児童や教職員による「あいさつ運動」を継続するとともに、コミュニティースクール実施校として、学校、家庭、地域の連携した「共育」による「木崎地区のあいさつ運動」を推進します。
- ②個別支援教室、特別支援学級の弾力的運用、交流および共同学習を計画的に実施し、様々なニーズに応じた教育を充実させます。
- ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員との一層の連携を図ります。また、専門機関への連絡・相談を躊躇なく行っていきます。
- ④「学校生活のきまり」を可能な限り絞り込んで徹底させるとともに、自ら納得して、集団の秩序を維持しようとする態度を育てます。

(3) 健康的な生活習慣づくり

- ①With コロナにおける体力向上に向けて、みんなが楽しい、みんなが活躍する体育授業を実現させるため、学習過程や場の設定等、工夫して授業に取り組みます。
- ②活動前後の手洗い・手指消毒の徹底など、「学校の新しい生活様式」に基づいた生活に留意し、コロナ禍における健康の維持管理に努めます。
- ③児童をよく観察し、コロナ禍での心身の健康状態に気付き、早期に対応します。
- ④新型コロナウイルス感染症に係る正しい情報と適切な知識のもと、偏見や差別から児童を守ります。

(4) 安心・安全で豊かな教育環境の整備

- ①ユニバーサルデザインによる学習環境の維持（教室の整理整頓、刺激量の調整、学習ルールの明確化、子ども同士の相互理解）と指導方法（見通しをもたせる、わかりやすく伝える、参加型の学習、授業内容の構造化）を継続します。
- ②「ゴミ5個運動」「モクピカ清掃」を継続し、「自分の学校は自分の力で」きれいにしようという気持ちをもたせるとともに、「境目の1mを一番きれいに」なれる掃除を目指して取り組みます。
- ③より豊かで効果的な教育活動を行うため、児童や教職員の負担軽減を図ります。

(5) 家庭・地域と連携した「共育」の推進（学校情報の積極的な発信）

- ①各種便りや学校HPを利用し、学校での児童の活動状況を積極的に知らせるようにします。
- ②家庭、地域、そして学校三者の共育で、「あいさつ運動」を強化に取り組みます。